

平成 24 年度

事業報告書



自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部静岡県済生会

済 生 会 基 本 原 則

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、済生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立され、平成 23 年 5 月、創立 100 周年を迎えた。

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

平成 24 年度 静岡県済生会経営方針

済生会の理念と役割の実践

創立 100 周年を迎えた社会福祉法人^{恩賜財団}済生会は、広く外部、社会にむけて済生会の理念・役割・進むべき方向を知ってもらうために、第四次基本問題委員会報告書として、「第四次基本問題委員会報告－済生会の次の 100 年に向けて－」を発表した。厳しい経済状況、サービス事業体系と報酬体系が様々変化する経営環境の下、静岡県済生会職員も、これを今後の事業の指針とし、将来に向けて積極的に取り組んでいく必要がある。

1. 済生会ブランドの構築のために

「施薬救療」の精神を具現化した無料低額診療事業は、済生会活動の原点である。この事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療福祉サービスの積極的な推進を図る。この事業を幅広くかつ積極的に実行することにより済生会のブランドが確立する。

2. わが国最大の医療・福祉団体としての活動

- ・生活に密着した心温まる医療・福祉サービスを提供する。
- ・急性期から在宅まで切れ目のない医療・福祉サービスを提供するためには、あらゆる種類の医療・福祉サービスが密接に連携する必要がある、この面でも先導的な役割を果たしていく。

3. 行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の他団体との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。

4. 良質な人材の確保、「済生会人」としての育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る。

5. 地域社会のニーズに応えられるようその実現に努める。

6. ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全に一層努める。

目 次

○ 平成 24 年度事業報告

	頁
1 静岡県済生会支部事務局	1
2 静岡県済生会監査室	8
3 静岡済生会総合病院	10
4 静岡医療福祉センター児童部	15
5 静岡医療福祉センター成人部	18
6 静岡医療福祉センターライトホーム	20
7 静岡医療福祉センター研修所	22
8 静岡市発達障害者支援センター	23
9 伊豆医療福祉センター	25
10 静岡県川奈臨海学園	29
11 静岡市心身障害児福祉センター「いこいの家」	32
12 小 鹿 苑	35
13 小鹿なでしこ苑	39
14 静岡市桜の園	42
15 静岡市心身障害者ケアセンター	47
16 ワーク春日	51
17 静岡済生会看護専門学校	53
18 静岡済生会訪問看護ステーションおしか	55

以 上

1 静岡県済生会支部事務局（共通事業）

基本理念

生活困窮者を**済**う

医療で地域の**生**を守る

医療と福祉、**会**を挙げて切れ目のないサービスを提供する

平成 24 年度目標及び結果

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会創立の趣旨を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図るため、支部事務局においては、理事会・評議員会を中心として社会福祉法人の適切な運営管理に努めた。

①生活困窮者支援事業への積極的な取り組み

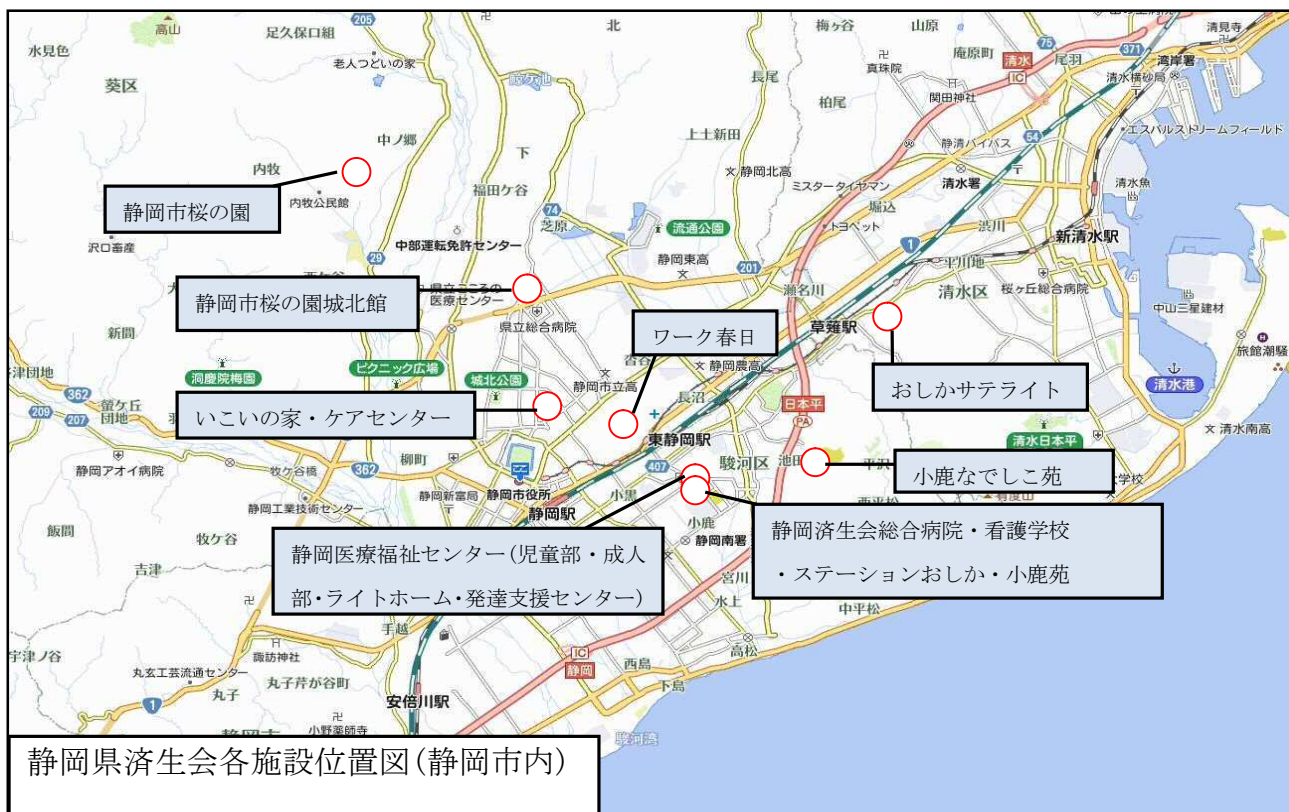
- ・済生会本部理事長を講師に招き、「済生会の進むべき基本方向」と題して講演会を開催。済生会活動の原点である「施薬救療」の精神を具現化した無料低額診療について、役付職員に対して啓蒙活動を行った。
- ・生活困窮者総合支援事業（なでしこプラン）を病院、各施設とともに推進、展開した。

②新施設の開所への支援と運営形態の変更等への迅速な対応を図る

- ・平成 24 年 4 月、静岡市高齢者福祉計画により整備を進めた特別養護老人ホーム「小鹿なでしこ苑」が開所。
- ・伊豆医療福祉センター大規模修繕工事への支援を行った
- ・平成 24 年度より静岡県の指定管理者制度から民営化へ移行した伊豆医療福祉センター、静岡市の指定管理者制度から民営化へ移行したワーク春日（施設名も静岡市ワーク春日から変更）、新体系へ移行した静岡市桜の園、社会福祉法の改正により施設種別を変更した施設等についても、その事業に支障なく移行できるよう関係機関との調整を図った。
- ・公益事業として経営をしている、看護専門学校、訪問看護ステーション、静岡市発達障害者支援センター等については、本会の目的を達成するため、病院及び関係施設と連携協調して円滑な運営に努めた。

平成 25 年度目標

平成 25 年度から 5 カ年に渡る中期事業計画と第二次なでしこプランの初年度にあたり、各事業の積極的な推進とその進捗状況の確認を図る。



(1) 支部事務局運営事業

社会福祉法人^{恩賜財団}静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

ア 理事会、評議員会の開催

・理 事 会

	開 催 日	場 所
第1回	平成24年5月22日	グランディエール ブケトーカイ
第2回	平成24年11月12日	静岡済生会総合病院
第3回	平成24年11月12日	静岡済生会総合病院
第4回	平成25年1月31日	グランディエール ブケトーカイ
第5回	平成25年3月18日	静岡済生会総合病院

・評議員会

	開 催 日	場 所
第1回	平成24年5月22日	グランディエール ブケトーカイ
第2回	平成24年11月12日	静岡済生会総合病院
第3回	平成25年1月31日	グランディエール ブケトーカイ
第4回	平成25年3月18日	静岡済生会総合病院

イ 諸会議の開催

会 議 名 称	回
・支部会議	26
・支部執行会議	2
・職員共済制度委員会	1

ウ 済生会本部等との連絡調整

会 議 名 称	回
・支部業務担当理事会議（本部）	2

エ 医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会 議 名 称	回
・介護保険施設連絡会	1
・看護師確保検討委員会	2

オ 第三者委員会の運営に係る業務

	開 催 日	場 所
第1回	平成24年7月5日	小鹿なでしこ苑
第2回	平成24年12月20日	静岡県川奈臨海学園

カ 職員研修事業の実施

	開催日	内 容
第1回	平成24年4月2日 (日程、会場の都合上 3回に分けて開催)	・新人オリエンテーション 法人概要と規程・規則の説明 新規採用職員213名出席
第2回	平成25年1月23日	・済生会本部理事長講演 「済生会の進むべき基本方向」 各施設役職者155名聴講
第3回	平成25年3月8日	・労務研修 施設長及び総務担当者22名出席

キ その他、法人の管理運営に係る業務

・会計事務所等による会計監査及び監事監査・全施設

	開催日	対象
監査法人及び会計事務所による会計監査	平成24年4月26日	静岡済生会総合病院
	平成24年4月27日	〃
	平成24年4月27日	福祉施設等
監事監査	平成24年5月8日	全施設

・行政機関（静岡県、静岡市）による指導監査への立会い

(2) 生活困窮者支援事業

生活困窮者総合支援事業（なでしこプラン）を病院、各施設とともに推進、展開した。

※静岡済生会総合病院での事業については、各施設別の掲載。

実施日	内容	対象者	対象者数
平成24年8月4日	啓蒙活動	地域の介護支援専門員	32名
平成24年10月27日	無料健康相談	地域住民	10名

また、就職相談会、介護フェア等においても無料低額診療事業等のパンフレット配布やDVD上映等を行い、啓蒙活動を実施した。

済生会本部から策定依頼のあった「中期事業計画」を作成、取りまとめを行った。
(平成25年度より、各施設・病院において目標数を設定し実施する。)

(3) 支部社会福祉事業

病院南側駐車場（静岡県より無償貸与）の収益金を財源として、静岡県済生会の総合病院・社会福祉施設利用者の福祉の向上を図るための社会福祉事業を行った。

事業実施にあたっては、「社会福祉事業実施要綱」に基づいて、総合病院及び社会福祉施設において計画した事業のうち、特に利用者に対して利便性の向上が図れる等、社会福祉事業として貢献度が大きい事業を選択して単年度予算の範囲内で実施する。

対象施設	事業内容	金額（円）
静岡県川奈臨海学園等 7 施設	児童居室畳替等 11 事業	5,737,700 円

（４）静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生の向上を図るため実施した事業の実績は、次のとおりであった。

	平成 24 年度		平成 23 年度	
事業名	人数（名）	決算額（円）	人数（名）	決算額（円）
退職共済事業給付金	57	203,595,940	46	163,307,957
医療共済給付金	5,085	32,145,186	5,233	31,421,404
職員共済制度資金貸付事業	2	848,863	2	1,271,760

（５）施設整備事業

ア 特別養護老人ホーム施設支援

特別養護老人ホーム小鹿なでしこ苑の施設整備支援を行い、平成 24 年 4 月 1 日開所を迎えた。

イ 障害児入所施設（旧重症心身障害児施設）事業施設整備

伊豆医療福祉センターは、重症心身障害児施設へ転換して以降、施設（病室・多目的室等）や設備（医療機器等）の狭隘、老朽化に問題を抱えながら運営していた。

平成 24 年度より静岡県から当法人への運営の移譲と平成 24 年度施設大規模修繕（増改築）工事が始まり、更なる利用者の処遇の向上を図れるよう関係機関との調整を行った。

- ・平成 24 年 10 月 23 日 入札
- ・平成 24 年 11 月 13 日 工事着工
- ・平成 25 年 11 月 30 日 竣工予定

平成24年度なでしこプラン事業報告(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計
支援対象 対象者延数 (合計)	3	3	904	14	68	31	38	1,061

施設名	支部、静岡済生会総合病院
-----	--------------

事業名	生活困窮者支援事業周知活動		内容	そ の 他 (広 報)								
概要	民生委員協議会と連携し、地域の民生委員を対象に生活困窮者支援事業等の周知を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計	
			対象者延数							32	32	
実施延日数			1 日	従事者延数			1 人	支出額				円
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡市ケアマネットみなみ、静岡市駿河区高齢介護課									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)											

施設名	支部、静岡済生会総合病院、特別養護老人ホーム小鹿なでしこ苑
-----	-------------------------------

事業名	支部内各施設における健康相談会事業		内容	健康・医療相談（その他）							
概要	福祉事務所、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、施設内にて、生活困窮者を含む地域住民を対象に健康相談及び健康診断を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数			5			1	4	10
実施延日数		2 日	従事者延数		4 人		支出額 円				
特記事項	連携している 団体・機関名										
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)		(身体障害者授産施設ワーク春日にて実施)								

施設名	静岡済生会総合病院、身体障害者療護施設静岡市桜の園、特別養護老人ホーム小鹿苑、身体障害者授産施設ワーク春日、障害者支援施設静岡医療福祉センター成人部
-----	--

事業名	社会福祉施設等健診・相談事業		内容	健康・医療相談（そ の 他）							
概要	社会福祉施設（養護老人ホーム、軽費老人ホーム、身体障害者各施設等）等と連携し、当該施設又は施設内にて、当該施設の入所者を対象に健康相談及び健康診断を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数			897			24		921
実施延日数		16 日	従事者延数		304 人		支出額		2,290,839 円		
特記事項	連携している 団体・機関名	<就労支援>日本平学園、<就継B型>ラポールあおい、ゆいまある、富士見作業所、<通授>ワーク春日、<軽老>ケアハウス白寿荘、<養護老人>静岡老人ホーム、<身障療護>静岡市桜の園、<特養>小鹿苑									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

施設名	静岡済生会総合病院									
-----	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名	「外国人のための無料健康相談と検診会」連携事業										
概要	NPO法人「外国人のための無料健康相談と検診会」と連携し、看護師やMSW等を派遣して、生活困窮外国人を対象とした健康相談等を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数					68			68
実施延日数		1 日	従事者延数		3 人		支出額		円		
特記事項	連携している 団体・機関名		外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会、静岡市、静岡市医師会、静岡市歯科医師会等								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

事業名	ホームレス受診者に対する日用品、交通費等の支給		内容	そ の 他 (そ の 他)							
概要	緊急入院したホームレス等の受診者を対象に、日用品の支給を行う。また、軽症の場合等には、病院から目的地までの交通費の支給を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数	3		2					5
実施延日数		5 日	従事者延数		5 人		支出額		34,560 円		
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡市役所								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

事業名	ハローワーク健診・相談事業		内容	健康・医療相談（その他）							
概要	静岡労働局、ハローワークと連携し、当該ハローワーク又は施設内にて、求職者を対象に健康診断及び健康相談を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数						2	2	
実施延日数		2 日	従事者延数		2 人		支出額		円		
特記事項	連携している 団体・機関名	静岡地域若者サポートステーション、ハローワーク清水									
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

事業名	保護観察所等刑余者健診・相談事業		内容	健康・医療相談（そ の 他）							
概要	保護観察所、刑務所、更生保護施設、地域生活定着支援センターと連携し、刑務所・更生保護施設又は施設内にて、刑余者等を対象に健康診断及び健康相談を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数				14				14
実施延日数		14 日	従事者延数			23 人	支出額		12,090 円		
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡保護観察所、静岡刑務所、静岡県地域生活定着支援センター、静岡市社会福祉協議会ほか								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

事業名	児童・母子福祉施設等健診・相談事業		内容	健康・医療相談（その他）							
概要	児童・母子福祉施設、静岡県こども家庭相談支援センター等と連携し、児童・母子福祉施設又は施設内にて、児童・母子福祉施設の入所者を対象に健康診断及び健康相談を行う		支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者 高齢者	刑余者	外国人	母子児童	その他	計
			対象者延数		3				6		9
実施延日数		9 日	従事者延数			12 人	支出額		2,240 円		
特記事項	連携している 団体・機関名		静岡県児童相談所、静岡県女性相談センター、静岡市児童相談所								
	事業実施上の問題点等 (未実施の場合は理由)										

2 静岡県済生会監査室

コンプライアンスと説明責任の重要性の認識が高まる中、社会福祉法人においても内部統制に係る取組みの強化が求められることとなり、実効性のより高い内部監査のあり方をめぐる社会的な要請が強まっている。このような視点に立ち、平成24年度に発足した監査室は、関係法令等、本部・支部の各種規程に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導を行うために下記の監査を実施した。

(1) 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施した。

- 定期監査 時期及び内容を定めて計画的に実施する。
- 決算監査 毎会計年度終了後、決算役員会前に実施する。
- 随時監査 会長または監事が必要と認めるときに実施する。

・定期監査・・・11施設

施設名	監査日
静岡県川奈臨海学園	平成24年10月17日
小鹿なでしこ苑	平成25年1月15日
小鹿苑	平成25年1月21日
静岡市桜の園	平成25年1月22日
静岡医療福祉センター児童部	平成25年1月23日
静岡医療福祉センター成人部	平成25年1月23日
いこいの家	平成25年1月28日
訪問看護ステーションおしか	平成25年2月20日
静岡済生会看護専門学校	平成25年2月21日
静岡済生会総合病院	平成25年4月9日

・決算監査・・・会計事務所等による会計監査及び監事監査

	開催日	対象
監査法人及び会計事務所による会計監査	平成24年4月26日	静岡済生会総合病院
	平成24年4月27日	〃
	平成24年4月27日	福祉施設等
監事監査	平成24年5月8日	全施設

・随時監査

	開催日	対象
いこいの家	平成24年8月21日	・利用料徴収事務の適正な処理について ・寄付金品の取り扱い
静岡市中心身障害者ケアセンター	平成24年8月21日	
静岡市桜の園	平成24年8月22日	

(2) 行政機関による指導監査及び実地指導等への立会い

・静岡県、静岡市による指導監査

施 設 名	実施機関	監 査 日
静岡県川奈臨海学園	静岡県	平成 24 年 10 月 24 日
小鹿なでしこ苑	静岡市	平成 25 年 1 月 24 日
小鹿苑	静岡市	平成 25 年 1 月 25 日
静岡市桜の園	静岡市	平成 25 年 1 月 29 日
静岡医療福祉センター児童部	静岡市	平成 25 年 1 月 30 日
静岡医療福祉センター成人部	静岡市	平成 25 年 1 月 30 日
いこいの家	静岡市	平成 25 年 2 月 1 日

・静岡県、静岡市による実地指導・・・施設

施 設 名	実施機関	監 査 日
ワーク春日	静岡市	平成 24 年 11 月 5 日
伊豆医療福祉センター	静岡県	平成 24 年 12 月 25 日
小鹿なでしこ苑	静岡市	平成 24 年 11 月 7 日
いこいの家	静岡市	平成 25 年 1 月 16 日
静岡市心身障害者ケアセンター	静岡市	平成 25 年 1 月 16 日
静岡医療福祉センター児童部	静岡市	平成 25 年 1 月 17 日
静岡医療福祉センター成人部	静岡市	平成 25 年 1 月 17 日
静岡市桜の園	静岡市	平成 25 年 2 月 5 日

3 静岡済生会総合病院（病院等事業）

基本理念

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

平成 24 年度目標及び結果

①優秀な人材の確保

- ・人事評価制度の見直しを実施し、平成 25 年度本格運用を目指した。
- ・教育センター設置に向けた準備を行い、多職種での教育研修等を実施した。
- ・後期研修医 4 名確保(消化器内科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科)。

②働きやすい環境

- ・職員旅行の実施、静岡済生会 A w a r d の実施。

③安定した経営

- ・コンサルタントによる委託費の見直しを行った。

④安心・安全・高機能な急性期医療の提供

- ・全職員対象に e ラーニング導入による医療安全の研修会実施。

⑤患者さん・連携医へのサービス向上

- ・患者満足度調査のポイントアップ。

平成 25 年度目標

①優秀な人材の確保

- ・必要な人材の確保と定着を目指し、職員教育の更なる充実を図る。

②働きやすい環境

- ・職員旅行の実施、病児保育の導入、有休休暇を取得しやすい環境づくりを図る。

③安定した経営

- ・安定した財源による新館建築の遂行のため、病床稼働率の向上等に努める。

④安心・安全・高機能な急性期医療の提供

- ・紹介患者専用窓口の設置。
- ・医療秘書の活用による医師・看護師の事務処理業務の軽減。
- ・わかりやすい視覚を利用したコンテンツによる丁寧な説明。

⑤患者さん・連携医へのサービス向上

- ・広報誌配布のエリア拡大と開業医へ向けた情報提供を行う。
- ・食堂、喫茶、売店への待ち番号案内の設置。
- ・通信機器を利用した呼出しの導入。
- ・無料低額診療の推進。

静岡県中部地域の中核病院（昭和 23 年 6 月 1 日開設）として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか病診連携の強化・地域福祉サービス事業の運営・活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

医療の質及びサービスの向上を図るため、医師等職員の確保、看護職員の定着対策、医療安全対策の強化に努めた。

そして、エコアクション 21 においてはグリーンカーテン・ピークカット運動を実施し、職員の節電及びエコに対する意識向上を図った。

（１）病院運営事業

無料低額診療施設として、許可病床 633 床の有効利用と 25 科の診療の安定した運営に努めた。

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
入院患者総延数	156,032 名	157,868 名
1 日平均入院患者数	427.5 名	431.3 名
入院患者 1 人 1 日当りの診療費	58,399 円	55,217 円
外来患者総延数	227,227 名	227,818 名
1 日平均外来患者数	927.5 名	933.7 名
外来患者 1 人 1 日当りの診療費	12,517 円	12,655 円

（２）救命救急センター運営事業・地域災害医療センター事業等

昭和 55 年 7 月 1 日より業務開始された救命救急センターに、医師・看護師・診療放射線技師・臨床検査技師及び事務員を配置し、休日夜間など 24 時間体制で治療を行った。

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
救急外来患者	15,656 名	15,990 名
入院患者	3,865 名	3,663 名
延入院患者	7,589 名	7,767 名
救急医療施設運営費等補助金	134,496,000 円	130,710,000 円
DMA T 研修延べ参加職員	1 名	0 名

(3) 臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
受入研修医数	17 名	19 名
医療関係者研修費等補助金	14,314,000 円	17,330,000 円

(4) 看護師確保対策事業（院内保育所）

看護師の離職を防止し、潜在看護師の再就職を促進するため、院内に保育所を設けて保育士 7 名、保育助手 2 名（うち派遣 1 名）を配置し保育（夜間保育を含む）を行った。

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
一日平均利用児童数	23 名	19 名
延べ利用児童数	5,957 名	4,895 名
病院内保育所運営費補助金	5,363,000 円	5,129,000 円

(5) 地域福祉サービス事業

社会福祉法人の総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努めた。

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
医療福祉相談	6,153 件	5,018 件
心理相談	4,312 件	3,561 件
看護相談	4,226 件	3,591 件

(6) 無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援を拡大した。また、福祉施設職員等を対象に、保健医療に関する研修会を開催した。（2 回開催延 75 名参加）

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
無料低額診療事業患者延数	18,830 件	18,404 件

(7) 生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体または当事者とともに啓蒙活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取り組みを行った。

※主な対象者：刑余者（刑務所などを出所した者）、DV被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
検診等	989 件	740 件
無料健康相談等	40 件	52 件
啓蒙活動	32 件	0 件

(8) 健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に应えるため、生活習慣病集団検診・一般健康診断・人間ドック・脳ドック・特定健診等を積極的に実施した。

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
人間ドック	1,347 名	1,473 名
生活習慣病検診	7,426 名	6,327 名
婦人検診（子宮がん検診）	1,357 名	2,011 名
乳がん検診（マンモグラフィ）	668 名	
〃（エコー）	670 名	
脳ドック	71 名	

(9) 病院駐車場事業（収益事業）

身体障害者を雇用して、病院南側駐車場（駐車可能台数 75 台）を管理運営することにより、障害者の自立促進に努めるとともに、病院・福祉施設利用者の利便性の向上を図った。

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
一日平均利用台数	236.2 台	245.6 台
収支差	7,134,099 円	9,124,780 円

(10) 岡本一男記念基金事業

静岡県済生会に勤務する職員が行う医学的研究・研修に対し助成するとともに、優れた業績の顕彰を行い、福祉・医療の向上を図った。

(医学の研究・研修・福祉医療活動 等)

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
助成金	448, 125 円	309, 850 円

(11) ナーススクール事業

将来の生き方や職業の選択について考えている、主に静岡市内の小・高校生を対象として、保健・医療・福祉への理解を深めるため、ナース体験等の研修を開催した。

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
小学生参加人数	38 名	28 名
高校生参加人数	94 名	84 名

※（ ）内は平成 23 年度実績

4 静岡医療福祉センター児童部（病院等事業）

基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

平成 24 年度目標及び結果

- ①医師の確保
 - ・常勤小児科医師 1 名採用
- ②看護師の確保
 - ・採用（施設間異動含む）4 名、退職 8 名
- ③静岡市障害者相談支援事業での地域生活支援事業等の支援実施

平成 25 年度目標

- ①医師の確保
- ②看護師の確保
 - ・前年度減員含め 5～6 名採用
- ③経営の健全化
 - ・患者数の確保 1 日平均 入院 55 名 外来 180 名
 - ・施設基準の引き上げ 入院基本料 13:1 → 10:1
- ④職員の質の向上及び早期離職防止を図る
 - ・職種別の資質向上のため専門研修への積極参加
- ⑤特定・障害児相談の指定を受け計画相談の実施
 - ・困難ケース対応中心に 12 名程度

(1) 医療型障害児入所施設事業（一種事業）（定員 60 名）

入所児及び通院児に対し、リハビリテーションを中心にした専門的医療・教育・施設内保育・生活指導等の「総合療育」を実施した。従来の肢体不自由児療育に加え、近年発達障害児の増加も顕著であり、利用者からの幅広いニーズに応えた。入所児数は年々減少傾向にあるが、外来患者数は増加をしている。

（ 入 所 ）			（ 外 来 ）		
定員	60 名	(60 名)	年間延患者	45,913 名	(44,384 名)
年間入所児童数	60 名	(55 名)	年間診療日数	243 日	(265 日)
年間退所児童数	62 名	(56 名)	一日平均患者数	188.9 名	(167.5 名)
年間延在所児童数	18,367 名	(19,492 名)			
一日平均在所児童数	50.3 名	(53.4 名)			

疾病別人員 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

病 名	年間実人員 (名)	百分比 (%)
脳 性 麻 痺	94	87.0
進行性筋・神経疾患	3	2.8
二 分 脊 椎	2	1.9
その他	9	8.3
計	108	100.0

月別在所児童数

年 月	初日在籍者数 (名)	延人数 (名)
24 年 4 月	48	1,478
5 月	51	1,572
6 月	53	1,559
7 月	49	1,545
8 月	52	1,653
9 月	48	1,483
10 月	53	1,551
11 月	52	1,542
12 月	48	1,542
25 年 1 月	46	1,538
2 月	53	1,427
3 月	50	1,477
計	603	18,367
月 平 均	50.3	1,530.6
一 日 平 均		50.3

(2) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

平成 15 年 4 月より支援費制度における指定居宅支援事業所として、居宅受給者証の発行を受けた児童及び重症心身障害者の方に短期間の施設入所サービスを提供した。平成 18 年 10 月からの制度変更により、障害者自立支援法による障害福祉サービス事業所の指定を受け実施した。

・定員	※空床利用型
・年間利用人数	212 名 (107 名)
・一日平均利用人数	0.58 名 (0.28 名)

(3) 障害児者相談支援事業（二種事業）

県市町等の実施事業主体からの依頼をうけて、次の相談事業等に医師等を派遣した。

ア 地域生活支援事業

- ・相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整

支援等延件数 292 名 2,299 件 (1,956 件)

肢体不自由児療育指導相談所（静岡県肢体不自由児協会）

1 年 2 回 (2 回)

イ 在宅支援訪問療育等指導事業

- ・派遣職員 医師、PT、OT、ST、心理士等
- ・活動先 障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回在宅訪問

支援等延件数 167 名 249 件 (266 件)

ウ 在宅支援外来療育等指導事業

- ・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

支援等延件数 86 名 328 件 (277 件)

エ 施設支援一般指導事業

- ・療育研修会、障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

支援回数 26 回 (47 回)

(4) 日中一時支援事業（公益事業）

在宅福祉を担当する相談支援員を中心に、医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れ等、地域に住む家族の生活への具体的な支援事業を実施した。

(5) 高校生リハビリテーション体験スクール事業

「高校生リハビリテーション体験スクール」の開催

- ・7月26日、7月27日 合計 29 名 (32 名) (2 回開催)

5 静岡医療福祉センター成人部（社会福祉事業）

基本理念

- ・利用者の方々の意思及び人権を尊重し、個別支援計画を通して個々の目的が達成できるように、利用者の皆様の立場にたった支援をします。
- ・施設生活という環境でも、四季の変化が感じられるよう豊かな生活環境づくりに配慮し生活環境の向上ができるよう支援します。

平成 24 年度目標及び結果

①利用定員（60 名）の充足を図る。

- ・施設入所での利用は、年間延在所者数が約 500 名増加し、1 日あたりの利用は 59.2 名であった。短期入所（空所利用）では、年間延利用者人数 324 名、1 日平均 0.9 名であった。入所と短期入所を合わせて、定員 60 名を充足することができた。

②快適な生活環境を整える。

- ・生活介護の利用者は、近年、重度化の傾向にある。障害者にとって、生活の中で最も困難な動作は入浴である。そのため、平成 24 年度は、浴室の全面改修と機械浴の増設を実施し、くつろいで入浴できる環境を整備した。
- ・利用者の中には、体重が 100 kg を超える方も多く、移動・移乗の際には職員も介護が困難であったが、内部研修により、移乗介護の向上を図り、リフターを導入することにより、移動・移乗の介護が容易になった。
- ・利用者自身も気軽に移動・移乗が出来るようになり、入浴での負担が軽減された。

平成 25 年度目標

- ①豊かな生活を整えるため、日中活動の充実を図る。
- ②利用者の入院日数の減少を目指す。

(1) 障害者支援施設（一種事業）（施設入所支援 60 名、生活介護 70 名）

平成 20 年 10 月から障害者自立支援法による新体系へ移行し、平成 23 年度からは施設入所支援 60 名、生活介護 70 名で事業を行った。

- ・定 員 施設入所支援 60 名 (60 名)
- ・年間入所者数 2 名 (12 名)
- ・年間退所者数 2 名 (14 名)
- ・年間延在所者数 21,625 名 (21,050 名)
- ・一日平均在所者数 59.2 名 (57.5 名)

疾病別人員 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

病 名	年間実人員 (名)	百分比 (%)
脳 卒 中	37	59.7
その他の脳原性疾患	5	8.1
脳 外 傷	3	4.8
そ の 他	17	27.4
計	62	100.0

月別在所者数

年 月	初日在籍者数 (名)	延人数 (名)
24 年 4 月	59	1,797
5 月	61	1,872
6 月	61	1,804
7 月	61	1,847
8 月	61	1,844
9 月	61	1,818
10 月	61	1,819
11 月	60	1,754
12 月	60	1,800
25 年 1 月	60	1,789
2 月	60	1,656
3 月	60	1,825
計	724	21,625
月 平 均	60.3	1802.1
一 日 平 均		59.2

(2) 福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）（空床）

平成 18 年 10 月からは指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を実施した。

- ・年間延利用者人数 324 名 (836 名)
- ・1 日あたり 0.9 名

※（ ）内は平成 23 年度実績

6 静岡医療福祉センターライトホーム（二種事業）（入所 10 名、通所 10 名）

基本理念

三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い利用者の自立更生をはかる。

平成 24 年度目標及び結果

①利用者（施術者）の確保

- ・新規利用者 1 名採用

②経営の安定化

- ・患者数の確保 利用客数 2,421 名

③マッサージの無料奉仕の実施

- ・9 月 9 日（日）に実施

平成 25 年度目標

①利用者（施術者）の確保

②経営の安定化

- ・患者数の確保 利用客数 3,000 名

③マッサージの無料奉仕の実施

（1）入所者指導事業

入所者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

・定員	20 名（20 名）
・年間新入所者数	1 名（1 名）
・年間退所者数	2 名（3 名）
・年間延在所者数	1,359 名（1,950 名）
・一日平均在所者数	4.09 名（6.1 名）

疾病別人員（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

疾病分類	入所実人員（名）	通所実人員（名）	百分比（%）
先天性視覚障害者	2	0	40.0
中途視覚障害者	1	2	60.0
計	3	2	100.0

月別在所者数

年	月	入所者延人数 (名)	通所者延数 (名)	延人数 (名)
24 年	4 月	90	20	110
	5 月	93	21	114
	6 月	90	21	111
	7 月	93	21	114
	8 月	93	21	114
	9 月	90	19	109
	10 月	93	22	115
	11 月	90	25	115
	12 月	93	23	116
25 年	1 月	93	23	116
	2 月	84	23	107
	3 月	93	25	118
計		1, 095	264	1, 359
月間平均延数		91. 25	22	113. 25
一日平均		3. 0	1. 09	4. 09

(年間通所日数 243 日)

7 静岡医療福祉センター研修所

基本理念

医療・福祉従事者の研修、会議、ボランティア活動の学習等への会場提供としての支援を行う。

平成 24 年度目標及び結果

- ①医療・福祉従事者の研修会等への会場提供
 - ・職員研修会の実施 2 回
- ②院内研修、施設見学時の会場提供
 - ・吉田高校福祉科施設見学の受入

(1) 会議室等運営事業

地域の医療・社会福祉関係従事者の研修や関係会議の場として会議室等を提供するとともに、自主事業として、リハビリテーション体験スクールなどの社会福祉関係の研修会、講習会等を実施し、地域における医療・社会福祉への理解や意識の向上に努めた。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ・社会福祉関係機関の研修会等 | 1,272 名 (1,169 名) |
| ・福祉団体、ボランティア関係等の会議・講習会 | 2,953 名 (4,130 名) |
| ・当福祉施設の見学研修等 | 895 名 (111 名) |

イ 宿泊施設利用状況

- | | |
|------|-------------|
| ・延 数 | 32 名 (73 名) |
|------|-------------|

8 静岡市発達障害者支援センター（公益事業）

基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体と連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター事業インストラクター養成研修等の支援を行っていく。

平成 24 年度目標及び結果

- ①支援ファイルの普及。
- ②ペアレントメンター・地域サポーター養成研修で人材育成の実施。
- ③サポート強化事業による園学校の訪問及び研修会の充実。
- ④静岡市校長会での講演の実施。
- ⑤公立幼稚園研修会及び入園時相談会への支援。
- ⑥子育て支援センターや私立保育園・認可外保育施設や児童発達支援事業所における相談会・研修会の開催。
- ⑦家庭・園でできる早期発達支援プログラムの洗練と普及。

平成 25 年度目標

- ①静岡市健康づくり推進課・保健福祉センターとの連携（すくすくファイルの使用の仕方説明会、静岡版早期発達支援プログラムの普及、健診医師・保健師・心理士のための専門研修会、ペアレントメンター派遣）。
- ②保育士、学校支援員、支援員研修会、保育園幼稚園学校単位の内部研修会及び相談会の実施。
- ③ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の充実（静岡市特別支援教育支援連携協議会、静岡市子ども若者支援地域協議会に参加）。

発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

(1) 発達障害者支援センター事業

ア 発達障害児者、その家族及び関係機関等に対する相談支援

実支援人員 672 名 (607) (地域内 647 名、地域外 25 名)
延支援件数 841 件 (768) (地域内 813 件、地域外 28 件)

イ 発達障害児者及びその家族等に対する発達支援

実支援人員 564 名 (498)
延支援件数 1,632 件 (1496)

ウ 発達障害児者に対する就労支援

実支援人員 70 名 (29)
実支援件数 145 件 (58)

エ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修

- | | | | |
|---------------------|---------|---------|---------|
| ① センター主(共)催で企画した研修 | 実施回数 | 22 回 | (32) |
| | 延参加人数 | 1,597 名 | (1,971) |
| ② 外部から講師依頼を受けた研修 | 実施回数 | 47 回 | (32) |
| | 延参加人数 | 1,912 名 | (1,033) |
| ③ 連絡協議会・調整会議の開催回数 | 実施回数 | 41 回 | (28) |
| | 延参加団体数 | 776 団体 | (590) |
| ④ 機関コンサルテーション支援 | 実施支援箇所数 | 29 箇所 | (16) |
| ⑤ 個別支援のための調整会議の開催回数 | 実施回数 | 590 回 | (485) |

(2) 家族支援・支援体制サポート強化事業

ア ペアレントメンター(地域サポーター)養成研修 実施回数 6 回 (7)
延参加人数 304 名 (337)

イ 支援体制サポート強化事業による巡回

- | | | | |
|----------------|--------|-------|-------|
| ① 保育園幼稚園への訪問支援 | 訪問箇所数 | 21 園 | (18) |
| | 延参加職員数 | 771 名 | (706) |
| ② 小中学校への訪問支援 | 訪問箇所数 | 5 校 | (5) |
| | 延参加職員数 | 135 名 | (148) |

9 伊豆医療福祉センター（病院等事業）

基本理念

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・満足を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組めます。

平成 24 年度目標及び結果

- ①重症心身障害に関わる医療・福祉の向上を図る。
 - ・ひとつひとつの看護・介護行為は、安全を心がけ、丁寧に実施した。
 - ・安全対策委員会・感染防止委員会等開催し、防ぐことのできる事故を起こさないよう努めた。
- ②在宅の障害児者を支援する。
 - ・短期入所・日中一時支援事業及び障害児者の通所事業を実施した。
 - ・コーディネーターを配置し、在宅の障害児者の相談支援事業を実施した。
- ③職員の質の向上を図る。
 - ・重度・重症児（者）医療・療育講習会他へ職員を参加させ、職員の医療・療育技術の向上を図った。
- ④施設整備を図る。
 - ・大規模修繕工事に着工した。

平成 25 年度目標

- ①重症心身障害に関わる医療・福祉の向上を図る。
- ②在宅の障害児者の支援の充実を図る。
- ③職員の質の向上及び入所定員増に対応する職員を確保する。
- ④施設整備を図る。

(1) 医療型障害児入所施設・療養介護事業所

県の指定管理者制度が終了し、静岡県済生会が運営主体となった。入所者は児童が11名、成人が19名となっており、成人の割合が児童を上回っている。

入所における療育支援のほか、外来では、脳神経外科、発達行動小児科、小児神経科、整形外科、リハビリテーション科、障害児(者)歯科による専門診療を実施した。また、在宅重症心身障害児(者)の通所事業、短期入所事業(日中一時支援事業を含む)、障害児(者)地域療育支援センター事業等を実施し、静岡県東部の障害児(者)の総合的な療育支援を担っている。

(※指定管理者制度：平成18年4月1日～平成24年3月31日)

(入 所)		(外 来)	
・定 員	43 名 (43 名)	・年間延患者数	24,273 名 (24,154 名)
・年間入所児童(者)数	0 名 (3 名)	・年間診療日数	284 日 (286 日)
・年間退所児童(者)数	0 名 (3 名)	・一日平均患者数	85.5 名 (84.5 名)
・年間延在所児童(者)数	10,905 名 (10,606 名)		
・一日平均在所児童(者)数	30 名 (29.0 名)		

疾病別人員 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

病名	年間実人員 (名)	百分比 (%)
脳性麻痺	18	60.0
その他	12	40.0
計	30	100.0

月別在所児童(者)数

年 月	初日在籍者数 (名)	延人数 (名)
24 年 4 月	29	870
5 月	29	899
6 月	29	870
7 月	30	930
8 月	30	930
9 月	30	900
10 月	30	930
11 月	30	900
12 月	30	930
25 年 1 月	30	930
2 月	30	840
3 月	30	930
計	357	10,889
月 平 均	29.8	907.4
一 日 平 均		29.8

(2) 障害児通所支援事業（児童発達支援）（二種事業）

・定員	7名	(5名)
・年間延通所児数	523名	(672名)
・一日平均通所児数	5.1名	(6.5名)
・年間通園日数	102日	(103日)

(3) 障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）

・定員	5名	(5名)
・年間延通所児数	518名	(333名)
・一日平均通所児数	4.5名	(3.1名)
・年間通園日数	115日	(107日)

(4) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

(5) 日中一時支援事業（地域生活支援）（公益事業）

・定員	5名	(5名)
・年間延利用人数	1,337名	(1,651名)
・一日平均利用人数	3.7名	(2.5名)
・年間実施日数	365日	(366日)

短期入所・日中一時支援の合計

(6) 静岡県障害児（者）地域療育支援センター事業

在宅福祉を担当するコーディネーターを配置し、登録された障害児（者）を中心に相談・各種福祉サービスの提供及び調整を、電話・訪問・来所の形で行っている。在宅訪問・外来・施設支援指導事業を活用して、医師・PT・OT・ST・心理士・管理栄養士・看護師・保育士等を派遣コーディネートし、在宅障害児（者）の療育指導を行った。また、障害児（者）が充実して暮らせるまちづくりを目指し、行政機関等と会議を通じて連携を図っている。

・在宅支援訪問療育指導事業	101回	(121回)
・外来療育等指導事業	117回	(150回)
・地域生活支援事業(電話・訪問・来所)	156回	(167回)
・施設支援一般指導事業	140回	(130回)
・各種連絡会・自立支援協議会等参加	54回	(46回)

(7) 静岡県発達障害者支援センター機能強化事業

自閉症、注意欠陥多動性障害等がある発達障害児(者)に対し、訪問・外来・電話等の方法で、ライフステージに応じた生活を支援するため地域での福祉サービスの情報提供、また、学校・保護者を含む関係機関との調整会議への参加を実施してきた。

療育3事業については地域療育支援センター事業と合同で行っている。

- ・地域生活支援事業(電話相談含む) 613 回 (687 回)

(8) 地域協力事業

結核定期健康診断

- ・東部特別支援学校高等部の生徒に対して実施した。

延人数 9 名 (7 名)

10 静岡県川奈臨海学園（社会福祉事業）

基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが、尊重され、心身ともに健やかに育成され、将来健全な社会の一員として、自立できるよう支援を行う。

平成 24 年度目標及び結果

- ①児童各自についての支援目標は、「自立支援計画票」を作成し、保護者、学校関係、各担当児童相談所等と協力し、目標達成に繋げる。
 - ・児童各自の支援目標については、それぞれの成長に合わせ取り組み、検討し、少しずつの成長の児童もいるが、目標に近づいたと思われる。継続して指導、支援を行う。
- ②発達の保障と自立支援について、中学校（中学校卒業予定 4 名）、高等学校（高等学校卒業予定 1 名）を卒業する児童の進路決定。
 - ・中学卒業生 4 名のうち、高等学校へ進学が 2 名、特別支援学校高等部への進学が 1 名、職業訓練校への入校が 1 名となり、それぞれの進路を決定することができた。
 - ・高等学校卒業生の 1 名は就職が決まった。
- ③家族との連携及び協働について、家族再統合のできる家庭の調整。
 - ・家族との再統合を目標としていた児童は、4 名が家族のもとへ戻ることができた。引き続き、家族との連携を図る。
- ④医療ケア児童等の医療面対応の確立及び県立東部特別支援学校川奈分校との連携。
 - ・嘱託医として伊東市内に開業された静岡県川奈臨海学園元施設長の村上吉男医師にお願いし、協力を得た。施設内の看護師とともにマニュアルを作り、県立東部特別支援学校川奈分校との連携を図った。
- ⑤厚生労働省の「社会的養護の課題と将来像への取組」により、本体施設の小規模化に向けての検討を進める。
 - ・厚生労働省の「社会的養護の課題と将来像への取組」により、本体施設の小規模化に向けての検討を継続した。

平成 25 年度目標

- ①児童各自についての支援目標は、「自立支援計画票」を作成し、保護者、学校関係、各担当児童相談所等と協力し、目標達成に繋げる。
- ②発達の保障と自立支援について、中学校（中学校卒業予定 4 名）を卒業する児童の進路を決定する。
- ③家族との連携及び協働について、家族再統合のできる家庭の調整をする。
- ④厚生労働省の「児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護の推進」について、関係機関及び行政との連携、静岡県との相談のうえ、施設の建替を視野に入れ検討し進める。

(1) 児童養護施設運営事業（一種事業）

虐待を受けた児童が増加する中、2才児から高校生まで月平均 62.7 名の子ども達に対し、職員全体がかかわりながらより良いケアに努力した。

・定員（暫定定員）	100 名（80 名）	（87 名）
・年間入所児童数	15 名	（8 名）
・年間退所児童数	8 名	（20 名）
・年間延在所児童数	22,795 名	（25,199 名）
・一日平均在所児童数	62.4 名	（68.8 名）

疾病別人員（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

病 名	年間取扱実人員（名）	百分比（％）
慢 性 疾 患	10.0	15.9
精 神 疾 患	8.0	12.8
養 護	44.7	71.3
計	62.7	100.0

月別在所児童数

年 月	初日在籍者数（名）	延人数（名）
24 年 4 月	59	1,770
5 月	59	1,829
6 月	62	1,860
7 月	62	1,903
8 月	61	1,886
9 月	60	1,800
10 月	60	1,860
11 月	62	1,863
12 月	65	2,008
25 年 1 月	66	2,046
2 月	67	1,876
3 月	69	2,094
計	752	22,795
月 平 均	62.7	1,899.5
一 日 平 均		62.4

ア 小規模グループケア

小規模グループケア棟で定員 6 名、専任職員と本体施設職員がシフトを組み、児童との関係を密接にし、ケアの内容を深めた。

イ 乳幼児受け入れ

川奈幼稚園や近隣地域と連携を取り、理解と協力を得ながら、積極的な乳幼児の受け入れを行った。(月平均 13.2 名在園)

(2) 病児・病後児保育事業

病気、病後児で家庭での療養が困難な幼児、預かっている。

核家族化や共働き世帯の増加により、今後もニーズが高まると思われる。

来年度は、伊東市より委託費の加算が付き、保育士 1 名を新たに採用し、より一層の保育の充実を目標としている。

・登録児童数	638 名 (615 名)
・年間利用延児童数	238 名 (303 名)
・月平均利用児童数	19.8 名 (25.3 名)

1 1 静岡市心身障害児福祉センター「いこいの家」(社会福祉事業)

基本理念

いこいの家は児童憲章の精神を尊び、障がいのあるこども、又はその可能性のあるこどもが地域で育つ時に生じる様々な問題や発達基盤である家庭生活への支援により、こども達の健やかな育ちと安心、安全な生活の達成に努めます。

平成 24 年度目標及び結果

平成 24 年度は児童福祉法の一部改正にともない、知的障害児通園施設から児童発達支援センター(事業種別)にみなし指定された。改正に伴う様々な手続きを行政等と確認しながら進めていった。

指定管理の更新と児童発達支援センターとして必須事業とされた相談支援事業と保育所等訪問支援事業を指定のための準備を進めていくことを課題としながら、通園支援はこれまでの経験を発展させながら新制度が要求する点に応えるべくひとつひとつ検討を加えた。通園しているこども達の支援のほかに、地域の療育機関として中核的役割を果たし地域における発達の心配なこども達への支援を強化していくことが求められている。

平成 25 年度目標

- ①静岡市から指定管理の指定を受け、障害児通所支援事業に加え、保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援の新規事業も開始となり、円滑な事業展開を図る。
- ②静岡市の児童発達支援の取り組む事業者のネットワークづくりをする。
- ③支援記録・個別支援計画等の見直しを定着させ、職員の人事異動等で児童発達支援の経験の少ない職員も増えているため研修を行っていく。一人ひとりの思いに寄り添い、きめ細やかな発達支援に取り組む。

(1) 障害児通所支援事業（児童発達支援）（二種事業）

就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。

・入園児数（定員）	50 名	（50 名）
・年間新入所児童数	19 名	（19 名）
・年間退所児童数	19 名	（19 名）
・年間延在所（通園）児童数	9,494 名	（9,465 名）
・一日平均在所（通園）児童数	40.9 名	（41.0 名）

疾病別人員（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

病 名	年間取扱実人員（名）	百分比（%）
脳 性 麻 痺	10	20.0
自閉症（自閉傾向を含む）	22	44.0
精神遅滞（発達遅滞を含む）	4	8.0
染色体異常（ダウン症他）	1	2.0
その他	13	26.0
計	50	100.0

月別在所児童数

年 月	初日在籍者数（名）	延 人 数（名）
24 年 4 月	50	654
5 月	50	822
6 月	50	859
7 月	50	890
8 月	50	774
9 月	50	773
10 月	50	921
11 月	50	834
12 月	50	656
25 年 1 月	50	749
2 月	50	826
3 月	50	736
計	600	9,494
月 平 均	50	791.2
一 日 平 均		40.9

（年間通園日数 232 日）

(2) 地域療育相談事業

療育相談の実施（随時）

在宅の心身障害児（者）の外来療育相談や母（父）子通園による親子教室を年間 238 回（月平均 19.8 回）実施した。

・親子教室参加児数	166 名（169 名）	参加児延数	2,222 名（2,075 名）
・療育相談実施児数	72 名（77 名）	電話来所相談	246 名

(3) 地域福祉事業

地域に開かれた通園施設として、地元をはじめ広く市民やボランティア、学生、主婦の方々との交流を実施した。

・いこいの家通信発行	12 回（12 回）	360 部（360 部）
・夏祭り参加者		422 名（434 名）
・城東保健福祉エリア地域交流まつり参加者		約 5,000 名（約 4,500 名）
・実習生受入	14 名（25 名）	延 146 名（302 名）
・体験研修受入	36 名（34 名）	延 53 名（34 名）
・ボランティア受入	個人 21 名 (23 名)	団体 62 名 (59 名)
		延 460 名 (540 名)

12 小 鹿 苑（社会福祉事業）

基本理念

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

平成 24 年度目標及び結果

①入所利用者の居室環境整備を行う。

- ・多床室であるが、個に配慮した居室となるように、家具調の間仕切り設置、カーテンの取替を行った。共用部分では、廊下、食堂等の模様替えを行い、一般浴室を個浴対応へと改修した。

②報告、連絡、相談を徹底する。

- ・在宅サービスにおいては、職員間及び各事業者間との連携が特に重要であり、報告、連絡、相談、の徹底を周知しているが、報告漏れや各事業者間の連携が的確に行えない事例もあった。

③入所利用者の空床日数を解消する。

- ・退所により空床となった居室の新規利用者の入所に手間取り、空床日数が解消できなかった。
- ・ショートステイ利用者の減少等、結果が出せなかった。

平成 25 年度目標

①良好な生活環境を保持し、快適な暮らしの提供に努める。

- ・ご利用者一人ひとりの空間を大切に、整理、整頓、清掃、清潔の保持を徹底する。

②事業間における情報共有によりの的確な支援を提供する。

- ・的確な報告、連絡、相談、打ち合わせを実行する。

③安定した運営のために各事業が目標数値を達成する。

- | | | |
|-------------|----------|-------|
| ・特養部 | 1 日平均在所者 | 79 名 |
| ・短期入所部 | 1 日平均利用者 | 17 名 |
| ・通所介護部 | 1 日平均利用者 | 28 名 |
| ・訪問介護部 | 1 日平均利用者 | 28 名 |
| ・地域包括支援センター | 月平均件数 | 300 件 |
| ・居宅介護支援 | 月平均件数 | 120 件 |

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 80 名定員（80 名）

居室等のリニューアルを行い、より個に配慮した居室環境となった。
ポジショニングを導入することにより介護度の高い方の QOL の向上を目指す取り組みを行った。

新規入所申込が 112 件、平成 24 年度末現在で入所希望者は 273 名（218 名）である。

・年間新入所者数	22 名（23 名）
・年間退所者数	22 名（24 名）
・一日平均在所者数	77.6 名（78.0 名）
・入所者平均年齢	83.2 歳（81.5 歳）
・平均介護度	3.4 （3.6）

疾病別人員（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日現在）

病 名	年間実人員（名）	百分比（％）
脳卒中等	33	32.7
認知症等	45	44.5
心疾患等	3	3.0
リウマチ、脊椎症等	11	10.9
その他	9	8.9
計	101	100.0

(2) 短期入所事業（二種事業） 定員 20 名（20 名）

施設入所等により 37 名利用者が減少し、新規利用者は 33 名であった。
例年どおり、週末・連休期間の希望者は多数であった。また、一人年間利用日数は平均 48.1 日（51.4 日）であった。

・年間延利用者数	5,437 名（5,868 名）
・月平均延利用者数	453 名（489 名）
・一日平均利用者数	14.8 名（16.0 名）
・利用者平均年齢	84.6 歳（85.9 歳）
・平均介護度	3.3 （3.4）

(3) 通所介護事業（二種事業） 定員一日 35 名（35 名）

大規模型Ⅰ（月次 750 名を超えて 900 名以下）でサービスを行った。
施設入所等により 31 名の利用者が減少し、新規利用者は 8 名であった。

・年間延利用者数	7,893 名（9,148 名）
・月平均延利用者数	657.7 名（762.3 名）
・一日平均利用者数	25.7 名（29.7 名）
・年間実施日数	307 日（308 日）
・利用者平均年齢	86.0 歳（85.5 歳）
・平均介護度	要支援 1.7 要介護 2.2 （要支援 1.7、要介護 2.1）

(4) 訪問介護事業（二種事業）

17 名（19 名）のホームヘルパーが稼働した。施設入所等により 27 名の利用者が減少し、新規利用者は 23 名であった。

・年間延利用者数	8,126 名（9,079 名）
・月平均延利用者数	677.1 名（756.6 名）
・一日平均利用者数	26.3 名（29.0 名）
・年間活動日数	308 日（313 日）
・利用者平均年齢	81.2 歳（81.2 歳）
・平均介護度	2.4 （2.6）

(5) 地域包括支援センター運営事業（公益事業）

静岡市からの受託事業であり、主に地域支援事業と指定介護予防事業を行った。西豊田、東豊田、東源台小学校区を担当し、高齢者の方からの総合相談、介護保険要支援認定者の予防プラン作成を行い、関係機関や民生委員との連携により問題解決に努めた。

また、地域への基盤づくりのため各関係機関や自治会の会議に参加し、地域住民に向けた介護予防セミナーや居宅介護支援事業所への研修会を企画実施した。

・年間延相談者数	1,129 名（1,114 名）
・月平均相談者数	94.0 名（92.8 名）
・一日平均相談者数	4.6 名（4.5 名）
・介護予防支援（直営・委託）	3,468 件（3,405 件）
・年間活動日数	245 日（244 日）

(6) 居宅介護支援事業（公益事業）

5 名（4 名）のケアマネジャーが稼働し、ケアプランを作成した。要介護認定調査は年間 123 件（138 件）であった。

・年間ケアプラン給付管理者延数	1,359 件（1,604 件）
・月平均数	113.3 件（133.6 件）
・ケアプラン新規作成者	39 名（40 名）
・平均介護度	2.6 （2.6）

月別在所（利用）者数

(名)

区分	特養		短期		デイサービス		ホームヘルパー		地域包括支援センター	
年月	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
24年4月	81	2,356	64	473	103	726	68	670	59	93
5月	80	2,378	63	485	98	757	67	737	73	95
6月	81	2,297	64	461	95	735	65	670	56	72
7月	82	2,458	65	514	96	713	67	665	77	96
8月	80	2,417	63	480	90	694	65	740	107	118
9月	81	2,343	59	475	91	653	65	651	88	113
10月	80	2,438	66	496	89	683	63	705	82	102
11月	82	2,325	58	424	85	624	66	677	83	96
12月	80	2,376	59	459	80	564	64	640	72	104
25年1月	80	2,384	57	399	79	573	66	633	62	81
2月	80	2,211	54	377	80	554	69	666	60	73
3月	81	2,376	57	394	82	617	67	672	67	86
合計	968	28,359	729	5,437	1,068	7,893	792	8,126	886	1,129
月平均	80.6	2,363.2	60.7	453.0	89.0	657.7	66.0	677.1	73.8	94.0
一日平均	77.6		14.8		25.7		26.3		4.6	

1 3 小鹿なでしこ苑（社会福祉事業）

基本理念

あなたがあなたらしく 私が私らしく

平成 24 年度目標及び結果

- ①ハウレンソウ（報告・連絡・相談）を徹底し、情報を共有する。
 - ・パソコン、掲示板、会議等を通じ、情報共有を図ることに努めた。
- ②介護技術の向上に努め、サービスの質の向上を目指す。
 - ・採用時研修、月 1 回の苑内研修、苑外の研修等を通じ、介護技術の向上を図ることに努めた。
- ③利用者の立場で考えることを実行する。
 - ・利用者と家族からの訴えについて、職員が情報を共有しサービスの改善に努めた。
- ④「自分がその立場だったら」から、言動・行動を選択する。
 - ・職員研修において、実際に濡れたオムツをはく体験をしたり、個別ケアやクレーム対応等の研修をしたりして、職員の理解を深めるよう努めた。
- ⑤自己啓発を実行し、専門職の力量を高める。
 - ・関連する資格取得や技能向上を図るよう、職員に情報提供等を行った。
- ⑥1 年間の目標を定め、それに向け努力する。
 - ・ユニット毎に研究課題を設定し取り組みを行った。年度末に研究発表会を行い、成果・課題を確認した。
- ⑦提供したサービスの反省を行い、サービスの質の向上に努める。
 - ・各ユニットにおいて、個人のカンファレンスを行い、提供したサービスについての成果をモニタリングし、必要に応じサービス内容を変更した。
- ⑧コストの削減に努める。
 - ・オムツはずしの推進、デマンド監視装置の設置、省エネ運動の実施、共同購入や一括購入等により、コストの削減に努めた。

平成 25 年度目標

- ①ハウレンソウ（報告・連絡・相談）を徹底し、情報を共有する。
 - ・パソコンによる伝言板のリニューアルを図り、使いやすくする。
- ②介護技術の向上に努め、サービスの質の向上を目指す。
 - ・研修担当者を設置し、採用時研修や苑内研修の充実を図る。また、苑外研修にも積極的に参加をし、介護技術の向上を図ることに努める。
- ③利用者の立場で考えることを実行する。
 - ・ユニット会議等において、サービスの改善について検討する。
- ④「自分がその立場だったら」から、言動・行動を選択する。
 - ・個別ケアやクレーム対応等の研修を強化する。
- ⑤自己啓発を実行し、専門職の力量を高める。
 - ・資格取得のための勉強会などを開催し、資格取得や技術力アップを図る。
- ⑥1 年間の目標を定め、それに向け努力する。
 - ・学会等で研究発表を行い、成果・課題を確認する。
- ⑦提供したサービスの反省を行い、サービスの質の向上に努める。
 - ・各ユニットにおいて、個人のカンファレンスを行い、提供したサービスについての成果をモニタリングし、必要に応じサービス内容を変更する。
- ⑧コストの削減に努める。
 - ・オムツはずしの更なる推進、省エネ運動の継続、共同購入や一括購入等による更なるコストの削減に努める。

(1) 特別養護老人ホーム運営事業（一種事業） 定員 96 名

開設初年度であるため、物品等の調達や苑庭等のハード面の整備を行うとともに、ユニットリーダー研修への参加や苑内研修等でのソフト面の充実も同時に図った。

・年間新入所者数	110 名
・年間退所者数	14 名
・一日平均在所者数	89.6 名
・入所者平均年齢	83.5 歳
・平均介護度	3.2

(2) 短期入所事業（二種事業） 定員 12 名

開設当初登録者数が少なかったものの、徐々に登録者数が増え一日平均利用者数も増えていった。今後は、日中活動の充実や土日送迎等のサービス向上策を検討し、より利用しやすい環境整備を行なっていく。

・年間延利用者数	2,669 名
・月平均延利用者数	179.6 名
・一日平均利用者数	7.3 名
・利用者平均年齢	85.4 歳
・平均介護度	2.9

(3) 通所介護事業（二種事業） 定員一日 12 名

認知症対応型のデイサービスのため、登録者数・一日平均利用者数を増やすことが難しい状況であった。今後は、居宅介護支援事業所と連携を図り利用者数の向上に努める。

・年間延利用者数	1,766 名
・月平均延利用者数	147.2 名
・一日平均利用者数	5.7 名
・年間実施日数	308 日
・利用者平均年齢	83.3 歳
・平均介護度	2.2

月別在所（利用）者数 (名)

区分	特養		短期		通所	
年月	人数	在所者 延人数	人数	利用者 延人数	人数	利用者 延人数
24 年 4 月	92	1, 192	6	48	2	8
5 月	95	2, 881	21	141	10	62
6 月	96	2, 841	19	164	15	122
7 月	94	2, 847	24	243	18	118
8 月	93	2, 839	27	265	20	176
9 月	96	2, 843	27	275	20	176
10 月	96	2, 963	30	304	23	227
11 月	96	2, 848	34	270	22	209
12 月	96	2, 928	32	266	21	178
25 年 1 月	95	2, 930	23	177	21	160
2 月	95	2, 645	29	244	21	161
3 月	95	2, 945	33	272	19	169
合計	1, 139	32, 702	305	2, 669	212	1, 766
月平均	94. 9	2, 725	25. 4	179. 6	17. 7	147. 2
一日平均	89. 6		7. 3		5. 7	

1 4 静岡市桜の園（社会福祉事業）

基本理念

「あなたらしさを応援します」

- ・人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。

平成 24 年度目標及び結果

利用者本位のサービス提供を基本として、利用者と職員が対等な関係の中で福祉サービスを提供する。

- ・活動的に過ごしたいという利用者のニーズにこたえるために、個々の希望を募り、業務改善委員会が中心となり、日中活動のプログラム化に取り組んだ。
- ・利用者個々の意向を十分にくみ取った支援計画を作成、実践した。
- ・利用者の人権擁護に関わるリスクマネジメント、身体拘束、虐待防止に要綱を作成し組織的に取り組んだ。

平成 25 年度目標

質の高いサービスを提供するために日中活動の充実強化を図り、地域に開かれた施設づくりを目指す。

（1）身体障害者支援施設事業 多機能型（一種事業）（定員 115 名）（115 名）

①施設入所支援（定員 50 名）

②施設入所をともなう生活介護（定員 50 名）

利用者主体のサービス体系の確立をすることが、利用者の QOL の向上に最も大切なことを念頭において事業運営を行った。特に個別サービスの充実に重点をおき、個別支援計画の策定、グループケアの導入、給食においては選択メニューの拡大、看護師による健康講演会の開催等計画的に実施できた。また、地域社会との交流については、行事（夏祭、秋桜祭、防災訓練等）を共催することによって交流を深めるとともに、社会福祉教育実践の場として各種養成機関の実習生の受け入れ及び高校生・一般の方々をボランティアとして受け入れた。

- ・利用実績延数 施設入所支援 16,877 名（17,684 名）
生活介護 11,955 名
- ・退所者 8 名（4 名）
- ・入所者 9 名（2 名）

疾病別人員 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

病 名	年間実人員 (名)	百 分 比 (%)
脳卒中	9	15.8
脳性麻痺	20	35.1
脳外傷	10	17.5
脊髄小脳変性症	2	3.5
脊椎損傷	5	8.8
その他	11	19.3
計	57	100.0

月別在所 (利用) 者数 (名)

区 分	入所支援		生活介護	
	人数	延人数	人数	延人数
24 年 4 月	48	1,346	48	924
5 月	44	1,316	44	977
6 月	44	1,297	44	909
7 月	44	1,464	44	993
8 月	47	1,499	47	1,114
9 月	49	1,447	49	965
10 月	49	1,481	49	1,097
11 月	50	1,402	50	1,029
12 月	46	1,410	46	953
25 年 1 月	46	1,414	46	1,047
2 月	47	1,313	47	938
3 月	49	1,488	49	1,009
合 計	563	16,877	563	11,955
月平均	46.9	1,406.4	46.9	996.2
一日平均		46.2		45.9

(入所支援日数 365 日・入所生活介護日数 260 日)

③生活介護 (定員 50 名)

(生活訓練ホーム 25 名、生活訓練ホーム城北館 25 名)

利用者への支援として下記の支援を行った。

ア ADL の自立、心身の機能維持に関する支援

イ グループ活動を通して社会性を高める支援

ウ 生活圏を拡げ社会参加を促す支援等

なお、介護疲れを訴える家族が増え、支援事業と連携をすることにより、家族への支援の充実が図られた。

生活訓練ホーム

- ・実利用人数 25 名 (22 名)
- ・利用実績延数 3,376 名 (3,258 名)

利用者数調 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日) (名)

区 分	定 員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延利用者数	一日平均 利用者数
生活訓練ホーム 静岡市桜の園	25 (25)	3 (1)	0 (0)	3,376 (3,258)	13.8 (13.5)

月別利用者数 (名)

区 分	生活訓練ホーム静岡市桜の園	
年 月	初日在籍者数	延 人 数
24 年 4 月	22	283
5 月	22	282
6 月	22	302
7 月	22	310
8 月	22	286
9 月	22	276
10 月	22	320
11 月	22	286
12 月	23	243
25 年 1 月	23	249
2 月	24	250
3 月	25	289
合 計	271	3,376
月平均	22.5	281
一日平均		13.8

(年間通所日数 244 日)

生活訓練ホーム城北館

- ・実利用人数 16 名 (15 名)
- ・利用実績延数 2,722 名 (2,828 名)

利用者数調 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日) (名)

区分	定員	年 間 新利用者数	年 間 退所者数	年 間 延利用者数	一 日 平均利用者数
生活訓練ホーム 静岡市城北館	25 (25)	1 (2)	0 (0)	2,722 (2,828)	11.2 (11.7)

月別利用者数 (名)

区 分	生活訓練ホーム城北館	
年 月	初日在籍者数	延 人 数
23 年 4 月	15	221
5 月	15	222
6 月	15	226
7 月	15	242
8 月	15	264
9 月	15	211
10 月	15	246
11 月	15	237
12 月	15	195
24 年 1 月	15	204
2 月	16	225
3 月	16	229
合 計	182	2,722
月平均	15.1	226.8
一日平均		11.2

(年間通所日数 244 日)

④自立訓練（機能訓練） 定員 15 名 (15 名)

障害者自立支援法による機能訓練・送迎・入浴・食事のサービスを提供するとともに、利用者のニーズに応じて市内各所への外出等、社会性向上の活動や、専門家による創作的活動等の事業を実施した。

- ・実利用人数 2 名 (1 名)
- ・利用実績延数 113 名 (94 名)

(2) 日中一時支援事業（公益事業） 自立訓練（機能訓練）空床利用

日中において一時的な見守りその他の支援が必要とする障害者に対して送迎・入浴・食事のサービスを提供した。

- ・実利用人数 37 名 (55 名)
- ・利用実績延数 1,973 名 (2,005 名)

(3) 障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業） 定員 5 名 (5 名)

5 市町から利用があった。新規利用者は 7 名 (7 名) であった。定期的に利用する方が増加しており、実利用人数の半数近くに上っている。対応が困難な方に対しては、利用者本人、ご家族の要望を取り入れる工夫をし、適切なサービスを提供するよう努めた。

- ・実利用人数 52 名 (52 名)
- ・利用実績延数 1,170 名 (904 名)

月別在所（利用）者数 (名)

区 分 年 月	短期入所		自立訓練（機能訓練）		日中一時	
	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
24 年 4 月	18	64	1	8	45	170
5 月	17	75	1	8	43	187
6 月	20	106	1	9	44	175
7 月	18	78	1	8	43	175
8 月	26	105	1	9	43	180
9 月	25	119	1	8	43	154
10 月	22	104	2	13	41	175
11 月	21	91	2	12	40	169
12 月	21	78	2	9	40	151
25 年 1 月	20	107	2	12	39	145
2 月	19	128	2	12	38	146
3 月	18	115	2	5	37	146
合 計	245	1, 170	18	113	496	1, 973
月平均	20. 4	97	1. 5	9. 4	41. 3	164. 4
一日平均		3. 2		0. 5		8. 1

(年間通所日数 244 日)

1 5 静岡市心身障害者ケアセンター（社会福祉事業）

基本理念

私たちは、ノーマライゼーションの考えを基に、障害を持った人たちの誰もが生きがいを持って地域・家庭で生活が出来るよう、総合的な支援を行います。

平成 24 年度目標及び結果

- ①利用者の自立の促進・生活の質の向上等を図ることができるように、機能訓練、生活訓練において、個別支援計画に則り、利用者とそのご家族の意向に沿った支援を行う。
 - ・利用者、ご家族と個別に意向を確認し、意思及び人格を尊重した個別支援計画を作成し実施することができた。随時見直しを行い、心身の変化、環境の変化等に合わせた支援ができた。
- ②安全と安心を提供する。
 - ・職員一同、食事、入浴、送迎、活動、相談等において、常に利用者の立場に立った支援に心がけ、ヒヤリハット等によるリスクマネジメントによる対応にも心がけた。
- ③新規利用希望の方に対し、親切丁寧で適切な対応と調整を行う。
 - ・利用希望の方に対し、随時見学、面接対応を通じ、意向の確認、事業所の利用だけに留まらず、生活全般に関する相談等について相談支援と連携し行うことができた。その結果、平成 25 年 3 月 31 日現在 12 名（機能訓練 5 名、生活訓練 7 名）の新規のご利用があった。

平成 25 年度目標

- ①利用者の自立の促進・生活の質の向上を図ることができるように、機能訓練、生活訓練において、個別支援計画に則り、利用者とそのご家族の意向に沿った支援を行う。
- ②利用者の理解に努め、利用者の立場に立った支援に努める。そのために、必要に応じ個別での面接やご自宅への訪問、関係機関との連携を図りながら、利用者やご家族の意向の再確認を行う。
- ③ご希望の多い入浴、送迎についてできる限りご希望に添えるよう随時調整をしていく。
- ④新規利用希望の方に対し、迅速な対応に心がけ、相談支援と連携をとりながら、調整に努めていく。

(1) 障害福祉サービス事業〔自立訓練（機能訓練）〕（二種事業）（定員 20 名）

(2) 障害福祉サービス事業〔自立訓練（生活訓練）〕（二種事業）（定員 10 名）

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市より指定管理者として自立訓練事業を行った。

機能訓練の利用者は、身体機能の維持・向上、生活上の必要な訓練を、静岡医療福祉センターから訓練スタッフの派遣を受けて実施している。

生活訓練の利用者は、精神障害を合併し就労等への通所が困難になった方や、こだわりが強く配慮の必要な方が利用されている。

家族構成の変化、利用者自身の身体的、精神的変化等により、意向の変化、支援の見直しが必要な方に対して本人やご家族、必要な関係機関と情報の共有を図りながら対応している。

疾病別人員

（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

病名	年間実人員（名）	百 分 比（％）
（身体障害）		
脳性麻痺	43	47.8
脳血管障害	15	16.7
脳外傷	8	8.9
脊椎損傷	4	4.4
その他	20	22.2
計	90	100.0
（知的障害）		
知的障害	28	53.8
脳性麻痺	6	11.5
ダウン症	7	13.5
自閉症	7	13.5
その他	4	7.7
計	52	100.0

・登録者数 機能訓練 11 名（ 7 名） ・利用実績延数 330 名（325 名）

月別利用者数

区分	機能訓練		区分	機能訓練	
年月	実人員(名)	延人数(名)	年月	実人員(名)	延人数(名)
24 年 4 月	6	21	25 年 1 月	9	29
5 月	5	25	2 月	10	32
6 月	5	18	3 月	11	37
7 月	5	22	合計	89	330
8 月	6	26	月平均	7.4	27.5
9 月	6	22	一日平均		1.36
10 月	8	34			
11 月	9	35			
12 月	9	29			

（年間通所日数 243 日）

・登録者数 生活訓練 11 名 (4 名) ・利用実績延数 218 名 (195 名)
月別利用者数

区分	生活訓練		区分	生活訓練	
年月	実人員(名)	延人数(名)	年月	実人員(名)	延人数(名)
24 年 4 月	4	15	25 年 1 月	8	24
5 月	4	16	2 月	9	26
6 月	4	14	3 月	11	34
7 月	4	14	合計	67	218
8 月	4	11	月平均	5.6	18.2
9 月	4	12	一日平均		0.89
10 月	5	19			
11 月	5	19			
12 月	5	14			

(年間通所日数 243 日)

(3) 日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）

現在、多くの利用者が自立訓練の支給期間が終了し継続利用を希望され、日中一時での利用となっており、入浴や送迎を希望される方が多く、安全にご利用して頂けるように対応している。

・登録者数 身体利用 79 名 (78 名) ・利用実績延数 3,481 名 (3,250 名)
知的利用 41 名 (47 名) ・利用実績延数 1,943 名 (2,039 名)

月別利用者数

区分	日中一時支援		区分	日中一時支援	
年月	実人員(名)	延人数(名)	年月	実人員(名)	延人数(名)
24 年 4 月	128	456	25 年 1 月	122	391
5 月	126	470	2 月	122	401
6 月	127	482	3 月	120	437
7 月	127	487	合計	1,507	5,424
8 月	127	505	月平均	125.6	452.0
9 月	129	444	一日平均		22.3
10 月	129	505			
11 月	127	452			
12 月	123	394			

(年間通所日数 243 日)

(4) 特定相談支援事業（二種事業）

障害者生活支援センター城東は、静岡市障害者等相談支援事業として委託され、身体障害を主に三障害の相談支援に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援に関わっている。

ア 相談件数 2,535 件 (3,169) (内、ピアカウンセリング 68 件)
相談人員 650 名 (232) (内、ピアカウンセリング 55 名)

イ サービス利用等計画作成
実人員 33 名 ・延件数 187 名

ウ その他の活動 身体障害者生活支援事業 41 回 (6)
・社会資源を活用するための支援 (パソコン教室) 36 回
・社会性活力を高めるための支援 (外出支援等) 5 回

エ 参加会議 主催した個別支援会議 35 回 (6)
参加した個別支援会議 6 回 (17)
連絡調整会議等 20 回 (20)

(年間開所日数 245 日)

16 ワーク春日（社会福祉事業）

基本理念

私たちはノーマライゼーションの考えに基づき、障害があっても社会の一員として生活できるよう就労支援を中心とした総合的な支援を行います。

（1）就労継続支援事業B型（二種事業）（定員 30 名）

平成 24 年度目標及び結果（就労継続B型事業所）

平成 24 年度は静岡市から移管された初年度であり、授産事業を継続しつつ、施設運営を軌道に乗せることが目標であった。

- ・利用者の増加が第一の課題であり、関係機関に働き掛けた結果、新規利用者が 14 名（退所者 5 名）、一日平均 25.7 名（昨年度 20.7 名）の利用があった。利用者増により施設に活気が生まれ、中断していた給食提供も再開することができた。

平成 25 年度目標（就労継続B型事業所）

- ①平成 25 年度は引き続き一日の平均利用が 30 名を満たすよう利用者の確保を目標とし、利用者のスキルアップと就労支援に力を注ぐことができるように、就労移行支援事業の導入も視野に入れ、支援体制を整えていく。
- ②授産事業については引き続き点字印刷業務を中心に多くの利用者が関われる事業や作業を模索し、利用者の社会参加及び就労へとつなげていく。

利用者数

	利用者数（名）	
定員	30	(30)
一日平均利用者数	25.7	(20.7)

（年間通所日数 247 日）

受注件数

	件数（件）	
点字印刷事業	381	(384)
録音ワープロ速記事業	7	(11)
電話業務事業	16	(20)
DTP 事業	231	(196)
その他の事業	55	(53)
計	690	(664)

(2) 福祉ホーム事業（二種事業）（定員 6 名）

平成 24 年度目標及び結果（福祉ホーム）

安全かつ快適な居住の場を提供し規則正しい生活指導を行う。

- ・利用者に安全な居住・快適な居住の場を提供することができた。また、24 年度は年間通して入退所者はなかった。

平成 25 年度目標（福祉ホーム）

安全な居住かつ快適な居住の場を提供するとともに、地域生活に向けて援助していく。

利用者数

	利用者数（名）	
定員	6	(6)
一日平均利用者数	5	(4.4)

1 7 静岡済生会看護専門学校（公益事業）

基本理念

済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえのない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

平成 24 年度目標及び結果

看護に必要な知識・技術を習得し、済生の精神を養い保健・医療・福祉に貢献し修得する看護師を育成することを目的に、それぞれの学年目標を掲げ、学校での基礎的学習や臨地実習での技術習得に励んだ結果、三年生においては国家試験全員合格など、ほぼ目標どおり達成することができた。

平成 25 年度目標

- ①生命を尊び、個人をかけがえのない存在として尊重する態度を養う。
- ②看護の対象である人間を総合的に理解する能力を養う。
- ③それぞれの健康段階にある人に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。
- ④保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解し、実践できる基礎的能力を養う。
- ⑤看護の実践者として向上心・研究心を養い、主体的学習態度を身につける。

本年度においては、次のとおり 121 名（119 名）の看護師養成教育を行った。

この運営には、143,552,578 円（137,769,481 円）の経費を要し、うち、18,398,000 円（18,545,000 円）の補助金を県から受けた。

国より指示された「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」にそって学習内容を見直した。教育課程の適正な運用を図り個々の学生に対する学習指導を充実・強化をした。教員による一人ひとりの理解度に応じた指導や講師の特別授業を実施し、在校生 36 名全員が合格することができた。

また、看護師としての適性がある学生を確保するため、学校説明会やオープンスクールを開催するとともに、県内の高校を訪問し看護学生を目指す学生を募集した。

（1）学年別在籍者数

（名）

区分	1 年次生	2 年次生	3 年次生	計
平成 24 年度	40	36	45	121
平成 23 年度	40	36	43	119

(2) 入学試験結果状況 (名)

区 分		平成 24 年度	平成 23 年度
受験者	推薦入試	18	13
	社会人入試	30	22
	一般入試	259	207
	計	307	242
合格者	推薦入試	17	12
	社会人入試	4	2
	一般入試	59	54
	計	80	68
入学者	推薦入試	17	12
	社会人入試	4	1
	一般入試	19	23
	計	40	36

(3) 卒業生の状況 (名)

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度
静岡済生会総合病院	33	29
その他県内病院	3	1
県 外 病 院	0	2
進 学	0	0
そ の 他	0	0
計	36	32

(4) 看護師国家試験結果状況 (名・%)

	平成 24 年度			平成 23 年度		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	36	36	100.0	32	32	100.0
県内看護専門学校(3年制課程)	－	－	94.1	－	－	95.1

※平成 24 年度合格率 94.1%は、厚生労働省が発表した新卒者の合格率である。

1 8 静岡済生会訪問看護ステーションおしか（公益事業）

基本理念

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住みなれた地域で、我が家で安心して『その人らしく心豊かな生活』ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

平成 24 年度目標及び結果

①安定した運営

- ・訪問延件数は 15,152 件で目標の達成率 91%。前年度より実人数、訪問延件数ともに増加しており、計上収支は黒字決算となった。
- ・医療での訪問増加、退院前カンファレンスや特別管理加算等の報酬改訂により平均単価も増加した。

②組織の充実

- ・サテライトの訪問件数増加（利用者実数の増加、リハビリは目標数達成）。
- ・人事では、看護職、リハビリ、事務職員の各 1 名（非常勤）新規採用。産休、退職予定者があり看護、リハビリ職員は次年度も新規採用を予定している。

③看護の質の向上

- ・各自が研修計画を元に研修会に参加できた。部署内でも 6 回研修会を開催した。
- ・カンファレンス習慣を設け事例検討を行い、サービス担当者会議や退院前カンファレンスにも積極的に参加した。診療所の医師や他職種との連絡調整も積極的に行った。

④防災対策

- ・『災害メール』を利用した緊急連絡の確立。災害マニュアル及び顧客情報管理備品整備は委員会を設け準備検討中。

平成 25 年度目標

①安定した運営を目指す。

- ・年間訪問目標 17,000 件、月平均 1,416 件（看護 991 件・リハビリ 425 件）。
- ・広報活動の強化。
- ・地域ニーズを知る法人内相談室、地域包括支援センターやサービス部門との連携強化。

②スタッフ教育による個々のスキルアップを目指す。

- ・個々の年間目標作成、研修の年間計画（研修委員を設け部署内勉強会、院内外研修への参加）、個人評価表作成。

③働きやすい職場環境の充実

- ・人材確保、事業所の移転、有給取得率アップ、親睦会の開催、個人面接によるスタッフフォロー等を行う。

④利用者への良質なサービスの提供

- ・定期的な事例検討、他職種・他機関との連携強化、顧客満足度調査の実施、訪問新聞の発行、年報の作成、情報公表等を行う。

⑤防災マニュアルの整備

- ・防災マニュアルの見直し、顧客情報の管理、必要備品の整備、地域での役割認識。

(1) 訪問看護事業実績

平成 24 年度は介護保険、医療保険を含め訪問延件数は 15,152 件 (14,492 件) であり、平成 23 年度に比べ 660 件 (介護保険 801 件増加、医療保険 141 件減少) 増加した。

また、訪問延件数のうちサテライトみかど台分は 6,294 件 (5,239 件) であった。

介護保険延件数	12,252 件	(11,451 件)
医療保険	2,900 件	(3,041 件)
合 計	15,152 件	(14,492 件)
(月平均 1,262.7 件 (1,207.7 件) 1 日平均 51.5 件 (49.1 件))		

疾病別 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

病 名	人 員 (名)	百 分 比 (%)
神経系疾患	31	6.8
呼吸器系疾患	38	8.3
精神障害	17	3.7
脳血管系疾患	70	15.3
骨格系及び結合組織疾患	42	9.2
悪性腫瘍	115	25.1
その他	145	31.6
計	458	100.0

月別訪問者数

年 月	取扱実人員 (名)	延 件 数 (件)
24 年 4 月	245	1,196
5 月	251	1,293
6 月	261	1,306
7 月	258	1,367
8 月	247	1,298
9 月	252	1,160
10 月	262	1,388
11 月	258	1,352
12 月	264	1,224
25 年 1 月	255	1,157
2 月	253	1,143
3 月	261	1,268
計	3,067	15,152
月 平 均	255.6	1,262.7
一 日 平 均		51.5

(年間訪問日数 294 日)

年齢別性別訪問者数 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日) (名)

年齢 性別	～59	60～ 64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～	合計
男性	15	14	14	22	40	46	42	27	220
女性	20	6	9	18	25	44	56	60	238

(2) グループホーム等への訪問看護

認知症の方がグループホームのなじみの関係の中で、希望すれば、重度化しても終末期であっても最後までグループホームでの生活が継続できるよう支援した。

委託契約したグループホーム 1 施設に週 1 回の訪問をし、入居者の日常的な健康管理及びグループホーム職員からの相談への対応、また、必要に応じ医師との連絡調整及び指示書の発行を受け、医療処置等通常の訪問看護を行った。